

#### IV. 非機能要件の定義方法

システムの非機能要件として、以下の事項について定義を行います。

- ユーザビリティ及びアクセシビリティに関する事項
  - システムの利用者の種類、特性
  - ユーザビリティ要件
  - アクセシビリティ要件
- システム方式に関する事項
  - システムの構成に関する全体の方針
  - 開発方式及び開発手法
- 規模に関する事項
  - 機器数及び設置場所
  - データ量
  - 処理件数
  - 利用者数
- 性能に関する事項
  - 応答時間
  - スループット
- 信頼性に関する事項
  - 可用性要件
  - 完全性要件
- 拡張性に関する事項
  - 性能の拡張性
  - 機能の拡張性
- 上位互換性に関する事項
- 中立性に関する事項
- 継続性に関する事項
  - 継続性に係る目標値
  - 継続性に係る対策
- 情報セキュリティに関する事項

- システム稼働環境に関する事項
  - クラウドサービスの構成
  - ハードウェア構成
  - ソフトウェア構成
  - ネットワーク構成
  - 施設・設備要件
- テストに関する事項
- 移行に関する事項
  - 移行対象データ
  - 移行対象業務
  - 移行対象システム
  - 移行対象データ
- 引継ぎに関する事項
- 教育に関する事項
  - 教育対象者の範囲、教育の方法
  - 教材の作成
- 運用に関する事項
- 保守に関する事項

具体的な要件、以下のガイドラインなどを参考にして定義してください。

- 「デジタル・ガバメント推進標準ガイドライン」  
(各府省情報化統括責任者 (CIO) 連絡会議決定)
  - ・ 第 3 編第 5 章 要件定義
  - ・ 解説書、実践ガイドブックの上記該当箇所
- 「非機能要求グレード 2018」  
(独立行政法人情報処理推進機構)
- 「情報システムに係る政府調達におけるセキュリティ要件策定マニュアル」  
(内閣サイバーセキュリティセンター (NISC))

## ポイント

- 応募者やボランティアは一般的にシステムのユーザビリティ（操作性）を重視する傾向があり、ユーザビリティ要件がボランティア募集への応募者数、ボランティア活動への参加頻度などに大きく影響する可能性があります。応募者やボランティア向けの機能を提供する場合には、ユーザビリティ要件の策定において、このような点に充分留意する必要があります。
- ボランティア運營業務に特化したものでなくても、類似業務向けのパッケージ・ソフトウェアや SaaS などを活用できる場合があります。一般的に、パッケージ・ソフトウェアや SaaS を利用することにより、初期開発にかかる期間や費用の削減が可能であるため、開発方式はスクラッチ開発に拘らず、こうした製品・サービスの活用も検討することを推奨します。

例：

- ・ 募集・応募受付に、人事向けの採用管理システムを活用
- ・ 面談、集合研修、e-ラーニングに、一般向けの学習管理システム（LMS、Learning Management System）を活用

なお、パッケージ・ソフトウェアや SaaS は汎用であるため、スクラッチ開発で構築したシステムと比較して、一般的に業務への適合度は低くなります。しかしながら、ボランティア事業によっては、若干の業務適合性の低さは許容可能であり、むしろ開発期間や費用の削減のメリットが大きい場合もあります（特に、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会ボランティアのように、期間が限定されているボランティア事業などの場合）。

- ボランティア運営用システムでは、ボランティアの個人情報など機密性の高い情報を取り扱うことになるため、「情報セキュリティに関する事項」（情報セキュリティ要件）は特に注意深く定義する必要があります（例：多重ログイン認証の導入、CSV 出力機能などの利用制限、データベースの暗号化など）。ただし、過剰な要件は構築・運用コストの増大や利便性の低下などにつながるため、必要十分な要件とする必要があります。
- 既存業務のデータを移行する場合には、データ移行に多大なコストがかかることがあります。必要に応じて、移行ツールを開発・利用することなども検討することを推奨します。